

(86) 群馬県上牧の天沼鉾山跡一追記

岩友達と一緒に、10年ぶりに現地を訪れた。既報で報告した鉾山跡（参考文献（1）が表記している場所）以外に、参考文献（2）がマーキングしている位置に、プラトー跡と隣接する2箇所に「巨大な」坑口跡を確認することができた。

参考文献（2）によれば、本鉾山は金鉾山として戦前から戦後にかけて、昭和36年まで稼業していた。金だけを主産出鉾物としていた。鉾石は自然金を含む石英からなり、少量の黄鉄鉾を伴っていた。局部的には非常に優れた富鉾部を有していたとのことである。自然金はズリや沢筋にある「ザラメ水晶」の結晶面中に、極希にルーペサイズで見つけることができる。また、極々希にであるが、肉眼でも確認できることもある。ともかく、母岩表面にザラメを密にばらまいたように1面に分布している「ザラメ水晶」を見つけることであろう。

2021年4月

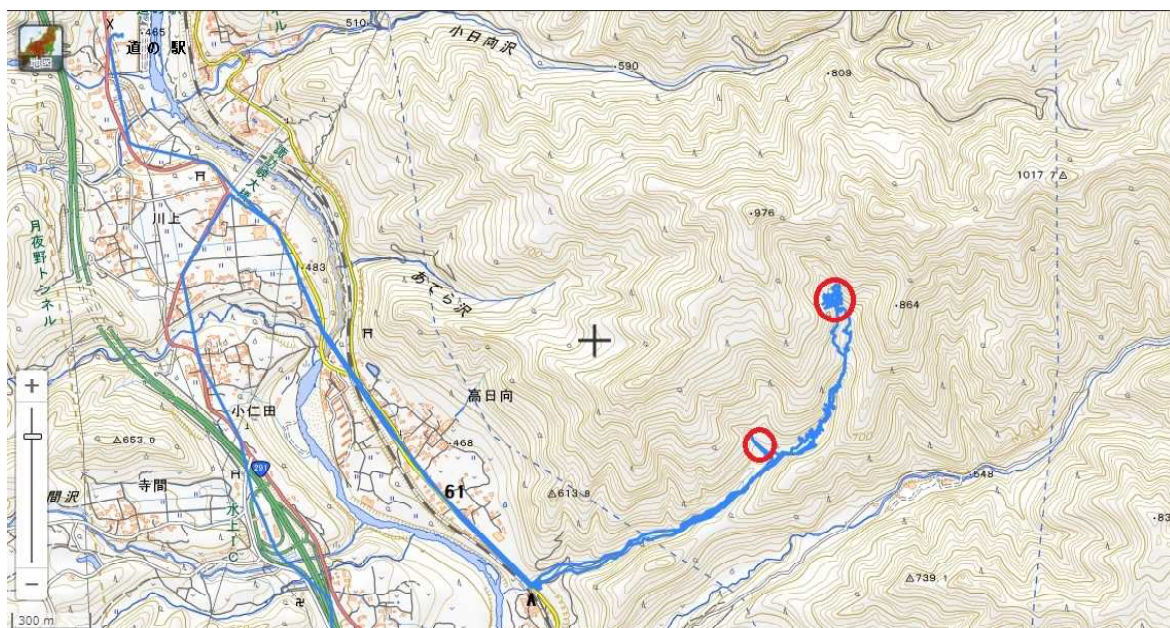


図1 現地は水上の近傍にある。岩友と道の駅「みなかみ水紀行館」で待ち合わせた。その後、61号線を南下し、奈女沢の所で、林道に入っていく。A点である。奈女沢の上流の2カ所に、鉾山跡及び坑口などがある。赤輪の2カ所である。10年前の既報では、下流側の赤輪の部分だけの紹介だけであった。今回、沢の上流部に、大きくて立派な坑口跡を確認できた。上流部の赤輪部分。



図2 図1の部分拡大図。61号線からA点で林道に入る。林道に入って直ぐの左部分P点に車数台が駐車できる空き地がある。林道はB点当たりまで明瞭であるが、車には狭く、荒れているので、車はP点に止めるべきであろう。

下方向200mあり、脈幅は10～30cmである。鉾脈は走向延長に比し上下方向に連続するのを特徴とする。天沼鉾山後沢坑坑内外関連図を図2-2に示す。

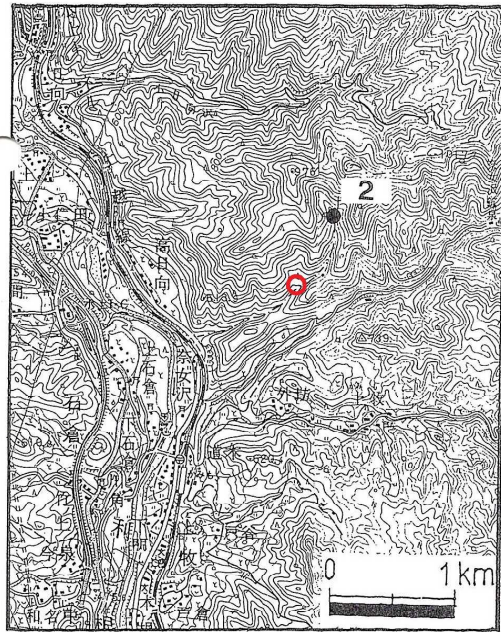


図2-1 天沼鉾山位置図

国土地理院5万分の1 追貝（H2）、四万（H1）

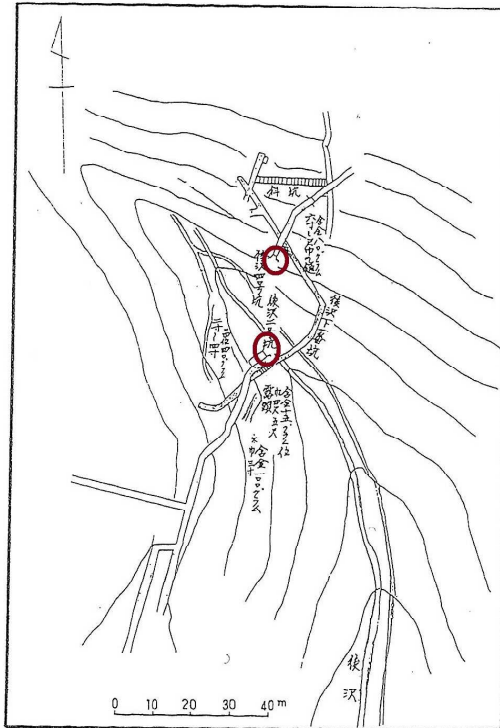


図2-2 天沼鉾山後沢坑坑内外関連図

図3 参考文献（2）から複写掲載。左図中の番号2の黒丸がこの文献の表記している天沼鉾山の位置である。右図中の2つの茶色輪は、今回確認した坑口跡と判断した。比較のため、参考文献（1）が表記している天沼鉾山の位置を赤輪で表記している。2つの文献では、これら2箇所の片方だけのみが記述され、他方の記述は全くない。何故なのであろうか？ 参考文献（2）が書かれた当時は、中流部の赤輪の箇所は開発されていなかったとの推論ができる。参考文献（1）が書かれた当時は、赤輪の部分は開発済みであり、鉾山施設跡として魅力があったが、上流の坑口跡へは明瞭な道が無く、鉾山跡としての紹介に、二の足を踏んだと推論もできる。

鉾山跡写真

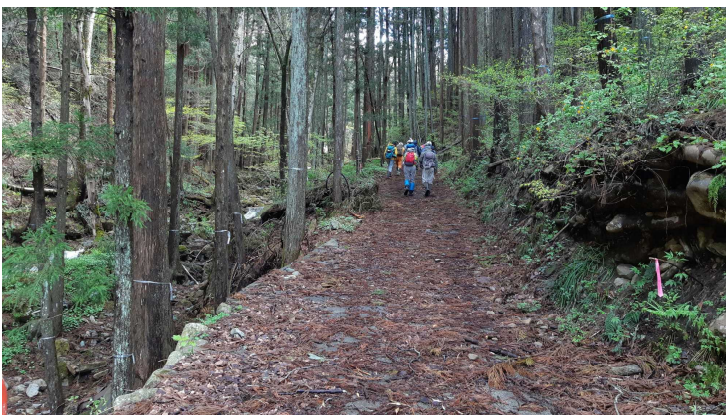


写真1 P点に車を置き、林道を歩き始める。B点付近まで林道は舗装されているが、至る所で痛んでいる。



写真2 B点である。登ってくると、沢の左手に林道が曲がっている。赤矢印の如く。これを登って行く。



写真3 直ぐにC点に達する。画面中央に破碎機が残っている。そして多段の石垣も。10年前と何ら変わることがなく。



写真4 近傍に、小さい祠。赤輪の所。



写真5 左手に登って行くと、坑口跡。



写真6 その入口から内部を覗く。



写真7 B点からC点に向かわず、沢を登り上がっていく。難しい沢では無い。ザラメ石英の転石を探しながらも結構である。D点付近。沢の右岸少し上に、プラトーがあった。赤輪の所。その斜面はズリ。この少し上流に2カ所に坑口跡。



写真8 プラトーに上がって、沢の下流を見ての一葉。大分埋もれかけている。



写真9 沢の右岸。右側の黒い箇所が沢床水準にあった坑口の1つ。岩友と比較すると、坑口の大きさが推測できる。図3との対照から「後沢二号坑」跡。



写真10 その入口から内部を覗く。大きく掘り込まれている。



写真11 そして、少し上流、左岸の沢床から少し上にあったもう1つの坑口。坑口は鉱脈に沿って垂直に露天掘りをしたようである。図3との対照から「後沢四号坑」跡。



写真12 写真11の坑口に近接しての一葉。入口に立てかけた樫棒と比較すると、坑口の大きさが分かろう。

写真13 写真12の坑口を入口から内部を覗く。



参考文献

- (1)「日曜の地学5 群馬の自然を訪ねて」、野村哲、築地書館、1998年。
- (2)「日本金山誌 第4編 関東・中部」、財団法人 資源・素材学会、1994年

(86) 群馬県上牧の天沼鉾山跡

参考文献(1)を手引きに、探査に出かけた。金鉾山である。金鉾山の多くでは、あまりめぼしい標本は採集できない。が、鉾山跡を確認したいのが、本鉾山探査の第一目標である。頑張って出かけた。鉾山施設跡及び坑口跡も確認できた。が、やはり、適当な標本は見つけ出せなかった。

この鉾山跡への経路は次の通りである。関越道を北上していき、水上ICで降りる。291号線に入り、北上していき、61号線に出る。61号線を南下していく。奈女沢地区で、進行方向左側にある林道に入っていく。が、分かりにくい。ここを行きすぎると、上越線のガード下を通り抜けることになる。その場合は元に戻る。林道はコンクリート舗装をされており、鉾山跡までオフロード車ならば登って行けそうである。が、林道入り口左側に適当な広さの空き地があるので、ここに駐車することにしよう。沢に沿った林道を先へ先へと進む。距離で約1km、徒歩で30分～40分で鉾山跡につく。

探査日 2011年 5月、その他

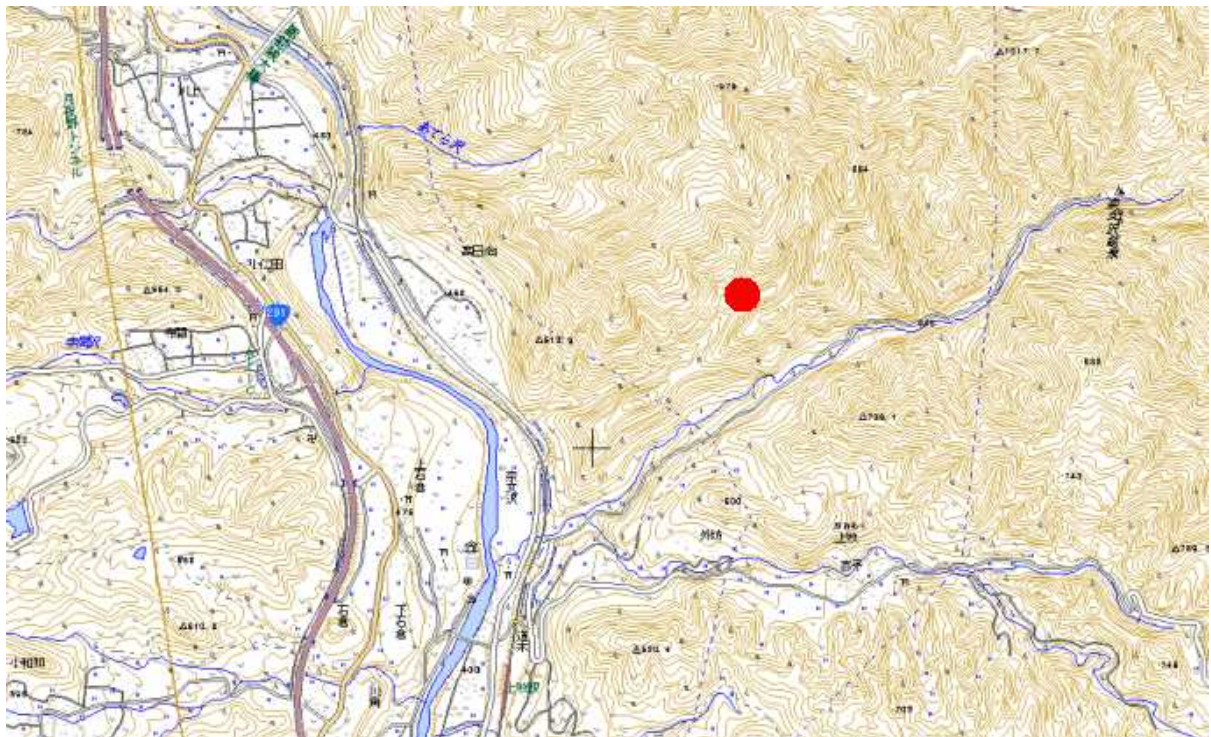


図1 国土地理院の地図サービスホームページより複写。赤丸当たりが鉾山跡。

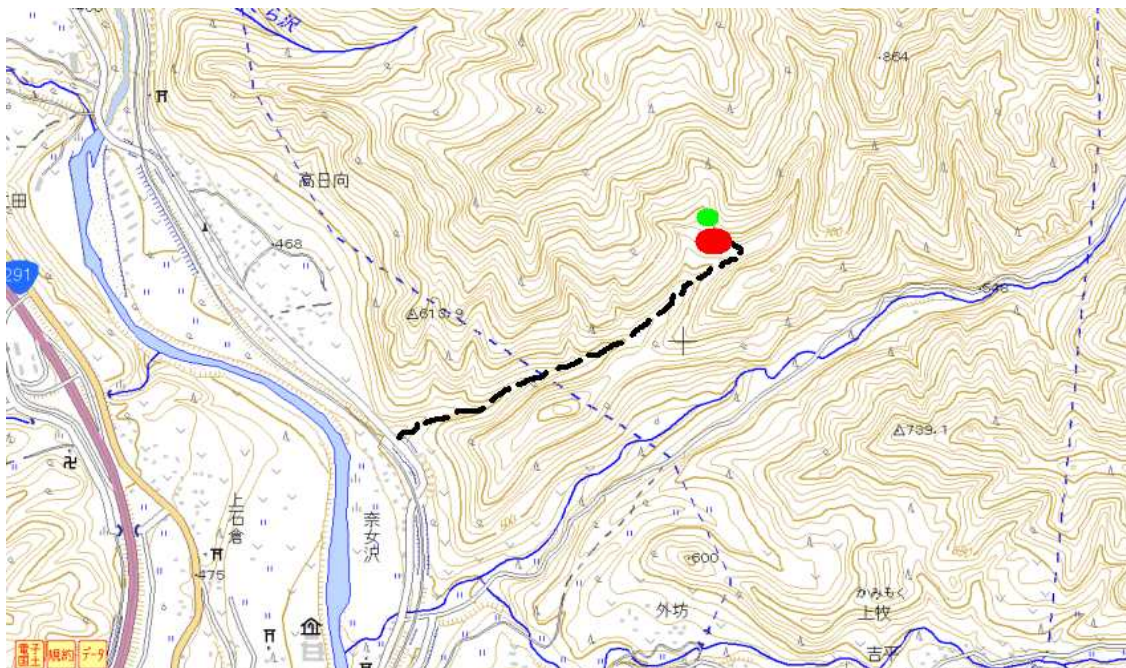


図2 図1の拡大図。黒線で林道を書き足している。ほぼコンクリート舗装されている。赤丸が鉱山施設跡。黄緑丸が坑口跡。

鉱山跡写真



写真1 61号線である。先は水上方向、後は月夜野方向。林道の入口を示している。中央右側がに林道が延びている。入って直ぐに適当な空き地がある。



写真2 鉱山跡にあった鉱石粉碎器。周りには何段もの石垣組がある。



写真3 粉碎器に向かって、左側奥の方に行くと、平坦な場所があり、その先に坑口跡があった。



写真4 粉碎器の前方の方に、祠があった。銘文を探したが、見つけ出せなかった。鉾山には、祠や社を祭る風習がある。その遺跡であろう。

採集鉾物写真

多くの金鉾山と同じく、これはと思う標本は採集できていない。

参考文献

(1)「日曜の地学 5 群馬の自然をたずねて」野村 哲、築地書館、1998年。